



自然を通して思うこと

弘教寺住職 中山英昭

生活習慣病のこともあって、今年3月から朝1時間程利根川、早川周辺を自転車ですべています。

私は血糖値の数が高めだったので、走ること大分改善されてきました。

また、走り終わった時の爽快感が何よりも心を動かすものとなり、続いているものと思えます。週3〜4回は走っているのですが、始めたその日に民家のゴミ捨場で、イタチを見ることができました。朝出かけていなければ、たぶん見ることはなかったと思います。とても感動しました。

かつては、我寺近くでもたびたび見かけたものですが、今ではほとんど見かけなくなりました。鳥のウズラの家族なども昭和30年代に境内地に遊びに来ていたことを記憶していません。自然の豊かな時代でした。

走っていますといろいろな生きものに出会うことができます。利根川河川敷では、キジに出会いました。自由に走り回っている様子を見ますと、ホツとした思いになります。

5月には産卵のために利根川の支流の早川に大きな鯉が上ってきます。浅瀬に何匹もの



第31号

発行所

〒370-0131  
伊勢崎市境米岡二七九-二  
浄土真宗本願寺派弘教寺  
寺報編集部  
電話 0270(74)0573

鯉がバシャバシャと音を立てて泳ぎ回るので。珍しい青サギも白サギに混って見ることができました。

多くの生きものが自然の中で生きていくことを、毎回のサイクリングで知ることができず。本当に楽しい時間です。

最近悲しい事件や事故が多くないですか。飲酒運転をして車を暴走させ、何の関係もない一家が犠牲になったり、行きずりの人を殺め平然としている人達。あげくに「人を殺してみたかった。」の言動には言葉も出ません。

自然界では、他の動物を必要のないかぎり殺めることはしないと聞いています。

人間社会がだんだん自然を隔てたことで、自然を通して獲得すべき、モラルや命の重さを喪失してしまつたのではないのでしょうか。

以前ニューヨークの動物園で、オリの前に「世界一恐しい動物」という看板がかけられ、オリの中の正面に1枚の大きな鏡が立てられていたといえます。オリの前に立った人は、自分自身が写し出される仕組みになっているのです。ウィットに富んだおどろきの企画と思います。人間への警鐘を鳴らすものだと思います。

最近息子がスマホを入れ替えるのと同時に

私も初めてスマホにしました。子ども達は、スマホを駆使してさまざまな情報を取り込んでいます。見知らぬ人とのやりとりもしています。未熟な私からすれば、すごいなと思います。それはあくまで、スマホを介した情報でしかないことで、ときには犯罪に巻き込まれたり、被害にあつたりということも多々あるわけです。スマホ等の情報の世界は、現実の世界とは違っていることの認識が薄いように思います。スマホなどの情報依存を捨て、自然に身を置いて見ませんか。きっと違った世界が見つけられると思います。

本山から配布された伝道用の掲示ポスターに、「あなたと私 おなじいのちを生きている」というものが本堂に掲げてあります。

鳥も魚も蛇も生きとし生きるものすべて、まさに今このいのちを生きていることに、自然を通して感じとってほしいと思います。

自然社会から離れている現代人だからこそ自然と向き合い、私自身を見つめ直すことは大事のように思います。自然に抱かれ、自然に遊び、自然に喜びを感じ、自然(生きとし生きるもの)に感謝できる私でありたいと思います。

合掌





仏教壮年会総会報告



5月17日、平成27年度弘教寺仏教壮年会総会が開催されました。40数名というたくさんの会員の出席をいただきました。

総会に先立つ記念講演は、右島和夫先生の講題「古代の群馬は元気だった」というお話でした。皆さん興味深く聞き入っていました。

続いて前年度の例会(計7回)の皆勤者にご住職から記念品が贈呈されました。議事に入り平成26年度会計並びに監査報告があり承認されました。次に平成27年度行事計画案が示され、研修旅行を含めて多彩な行事内容が決められました。

次の議題では、各サークルの担当者より活動状況を発表していただき、本年も会の活動がより活発になるよう紹介してもらい、総会は無事に終了いたしました。

18時より恒例の食事です。お好み焼きを皆で食べご住職からの提供された銘酒を酌み交わし、懇親を深めて20時にお開きになりました。長時間に渡りご苦勞様でした。

今年度も元気に壮年会活動を進めてまいります。(佐藤会長)

記念講演報告

右島和夫先生は、群馬県文化保護審議委員・群馬大学講師をされております。「古代群馬は元気だった」の講題で古代の群馬を語られ、自然に恵まれた群馬を再認識させられました。以下に講演内容をまとめました。

先の新聞で群馬県の知名度は全国最下位に近いと報道されたが、古代の群馬は東日本では一番元気だった。

その背景は古墳時代の『古墳』が物語っている。県内には1万4千以上の古墳が発見され、中でも太田の天神山古墳(写真)は東日本では最大のものである。これらの古墳からは、一、水と土地(平野)が自然に恵まれ多くの人々が生活をされていた。

二、古墳時代の中心だった大和(近畿)地方との深い関わりがあった。  
三、榛名地方に残された馬の痕跡が、東山道での内陸における交通の要を示す。



などが知らされる。また、古墳は地域の社(やしろ)とリーダーの墓として地域の全員が力を合わせて造られたものであり、地域の豊かさを物語っている。

(橋本ま)

太田地区古墳巡り

5月17日、右島先生の壮年会での記念講演を拝聴後、毎日生活をしている身近な東毛の古墳を見たいとの声があり、私(西)が引率して坊守様と会員を含め6名で6月24日午後、太田地区の古墳巡りをしました。

弘教寺を出発して旧354号を東に太田・牛沢交差点の東側にある朝子塚古墳を訪れました。市教育委員会が掲示した説明板を読みながら古墳の由来を理解。石の階段を上り墳丘に立つと11、8mの高さ。小じんまりとしたお社が鎮座している。東毛ガンセンターを右手に見て古代の人になった気分。この古墳は前方部が後円部に対して低く東側へ長く伸び、古墳の中でも古い時代の形との事。次は長さ360mで東日本最大級の古墳、『太田天神山古墳』。東武線の跨橋を昇り左手宅地造成が進む家並みの中に、女体山の茂みと天神山古墳の壮大な森が見えて来た。綺麗に整備された環濠を渡り説明掲示板を読む。昭和16年国指定の遺跡。先の朝子塚古墳とのスケールの違いを感じました。ここにも小さなお社があります。最後は県道2号線を伊勢崎方面に進み、先日国指定史跡となった『上野国新田郡家跡』に行く。租税の米を蓄えた高床倉庫群があり、国内最大規模の堀立柱建物跡を歩きました。古墳の大きさ、米倉庫の大きさが知らされる古代の東毛地域の豊かさを体験しました。(西ま)



## 群馬組仏婦連盟第19回総会・研修会

6月6日(土)に組仏婦総会並びに研修会が開催されました。今回は桐生の重恩寺様が担当でしたが、参加者が多く会場は桐生地場産センターになり、開会式では重恩寺坊守様の調声により「讃仏偈」ではじまりました。

総会では今年度は役員改選により会長の川村文子さんをはじめ、新役員が決まりました。記念講話は相愛大学教授の釋徹宗先生でした。先生は真宗のご法話と落語との関わりが深いことを講演され、全国を飛び回っている超多忙な人気講師です。

重恩寺様でのお手配により生演奏で、仏教讃歌「やさしさにであつたら」を全員で合唱しました。弘教寺の会員の方は日頃練習していたので、心をこめ歌うことができました。総会も盛会のうちに終わることができました。

私は任期満了に伴い会長の職を辞することになりました。平成21年から2期6年間つとめさせていただきました。当日の挨拶でも申しましたが初代会長の岩瀬モト様の「瀬古さん、あなたは一人ではないのです。いつでもどこでも如来様と一緒にです。」の言葉に励まされ行動してきたような気がしています。

最後になりましたが、組内各寺の坊守様、各寺の役員・会員の皆様に支えられ、無事に任期を終えることができましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。合掌

(瀬古の)

## 弘教寺 納涼カラオケ大会

第7回納涼カラオケ大会が7月7日に、カラオケスタジオ「ミナミ」で盛大に開催されました。24名の参加者を得て、各人持ち歌を唄い、くじ引きの加点方式で採点しました。そのため、歌の点数結果に一喜一憂の声があり、多いに盛り上がりました。「千の風になつて」、「花は咲く」の合唱も入り、心に残る大会となりました。お寺さんからの差し入れで、お酒も入り、一層の盛り上がりがありました。全員の一曲目が終わり、くじ引き加点されたの結果発表。緊張の中で順位が発表されました。岩内ひろろ子さんが見事優勝しました。結果が発表されていく中での皆さんの表情は印象的でした。



カラオケ会員以外の方も多数参加され、一日楽しく過ごすことができましたのは、仏さまのお陰と私自身感謝しております。次回の大会も是非、多くの皆様の参加をお待ちしております。(幹事神戸幸雄)

## 焼香の作法

## ―葬儀シリーズ③

「他宗派の葬儀に参列したとき、お焼香は1回でよいのですか。」と聞かれることがあります。浄土真宗(西本願寺)では通常押しただかずに、そのまま1回香を供えます。

各宗派ではさまざま焼香の作法があるようですが、押しただかずにの3回焼香が一番多いようです。他宗派の多いこの地域で葬儀の際に、参列された方々の多くが、3回焼香を行っているようであれば、1回の焼香をすることに迷いが出るのは当然だと思います。

私自身他宗派の葬儀に参列しても、1回の焼香を通していきます。他に合わせて、3回の焼香をする必要はありません。どうしようと、ゆっくりとゆったりと焼香をされたらよいのではないのでしょうか。

聞法者であったAさんは、真宗の作法を通した方でした。葬儀のおり、いつでも、どこでも1回焼香をされ、大きな声で、お念仏を称えておられました。

私達はそこまで徹底しなくてもよいと思います。まず自信をもって、ご自身の作法で焼香されてみてはいかがでしょうか。

焼香の折りには、お念珠をご持参することを忘れないうで下さい。(住職)







アルミ缶ごはん挑戦

子ども会に入ろう！入会はいつでもOK！

幼少年期の子供たちにとって、見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触るの五感を使って身体いっぱい活動することがすごく大事です。インターネットやゲーム機器の遊びやメディアの情報があふれ、現実感のない世の中に生きる子供たちですが、頭も身体も使った体験からは、実感を得、自信や生きる力や命への畏敬の念が持てるようになると思います。

弘教寺子ども会では、子供による子供のための子供の手作り遊び・手作り料理で楽しい時間を過ごしています。住職のお話、互いの誕生祝い、スタッフの皆さんとの世代間交流などが心を育ててくれます。

遊びに子供たちが夢中になるのは勿論ですが、泥だんごや凧や竹とんぼ作りなどでは、若いお母さんが真剣に作って競い合います。子供と共に育つ姿は感動的です。

土曜日午前、親同伴でなくても大丈夫。ぜひ沢山の子供たちに集まって欲しいです。様々な体験を用意して待っています！ (坊守)

8月29日(土)は夏フェスタ！

この人 坂井サクさん 伊勢崎市

坂井さんは、昭和47年に前住職さんが弘教寺仏教婦人会を創立させると同時に、役員として積極的に寺に関わるようになりました。

若い頃教師の経験もあり、また多才な面を持ち、詩吟や茶道の師範の免許を取得され、多くの方々に指導して来られました。

婦人会の思い出は沢山あるそうですが、中でも教区仏婦連盟の創立10周年の記念式典で、「命の尊厳」をテーマに弘教寺代表として発表したことは今も大切な思い出として心に残っているそうです。ご住職より星野富弘さんの詩集を借り、苦勞して原案を練り上げ、当日築地本願寺の本堂で、数百人の教区の仏婦会員を前にして、堂々と弘教寺仏教婦人会の実践発表をされました。ご住職も後日他の寺の坊守さん方から、「弘教寺さんには素晴らしい方がいらっしやいますね。」とおほめの言葉をいただいたそうです。

弘教寺仏教婦人会も来年で、創立45周年を迎えます。坂井さんは創設当時より役員とし活動され、婦人会の歴史を語る唯一の人と言ってよいと思います。

90歳を越えての一人暮らしを、2人の娘さんが心配され、市内の老人施設をあちこち調べ、本人も気に入ったというシルバーマンションを見つけ出してくれました。本年一月に転居ができました。今は自宅と施設との往き来の日々とのこと。



現在施設内での絵画教室に通われ、積極的な人生を過ごしていらっしやいます。坂井サクさんいつまでもお元気で。(橋本ま)

行事予定 (平成27年8月～平成27年11月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月	17日	婦人会例会	13～16日	お盆
	29日	子どもの集(夏フェスタ)		
9月	13日	壮年会例会(第2回)	18日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
	28日	婦人会例会	20～26日	秋彼岸
10月	3日	子どもの集(どろだんご)	3日	第7期連研(1) 西蓮寺
	13日	弘教寺ゴルフコンパ(第22回)	6日	組ビバーラ法話会(アザラ)
	17日	瀬越憲フヤケルコンサート		
11月	21日	婦人会例会		
	4～5日	合同研修旅行(新潟・村上市)		
	14日	壮年会例会(第4回)	11～16日	築地本願寺報恩講
	20日	婦人会例会		

※編集後記※

新聞紙上に「戦後70年」の記事が多くなっております。私は讃岐の山村で国民学校一年生の時に8月15日を迎え、戦争の苦しみは全く知りません。先日、NHKラジオで沖繩の6月23日の特集した放送があり、沖繩の先輩達が「戦争のトラウマ」を抱え、今も苦しい症状に耐えておられる事に気づかされました。医学では「心の傷」の治療はできなく、この方々の戦後70年は何かと考えさせられます。私の幸せは戦争のない平和であり続けたい。おかげさまと感謝しております。(橋本ま)



## 特別寄稿

## いのちを大事にした古墳人

右島 和夫

去る5月17日の夕方、弘教寺さんにて「古代の群馬は元気だった!」と題してみなさんにお話をする機会をいただきました。時間の都合もあり、とてもすべてを語り尽くすことはできませんでしたので、ご住職さんをお願いして本誌に寄稿させていただくことにしました。

本稿は、古墳人がいのちを非常に大切にしていたエピソードについて、私の専門である考古学の調査の成果を通して考えてみたいと思います。以下の本文を書き慣れている「である調」とすることをお許し願います。



前橋市公田東遺跡出土の鶏形土製品

## 前橋市公田東遺跡の周溝墓から出土した鶏形土製品

かつて、多くの農家には、ニワトリが飼われていた。毎日の早朝、ほぼ決まった時刻に「コケッココ、コケッココ」と甲高い声で鳴いて朝を告げるのが雄鳥で、目覚まし時計など無用のしろものだった。この習性から、雄鶏は暗いあの世と明るいこの世との間を自由に行き来できる能力があり、亡くなった人をあの世から再び甦らせることができる特別な鳥

と古来信じられてきた。

平成6年の夏、私は前橋市公田町にある「公田東遺跡」で古墳時代のはじめの頃造られた周溝墓と呼んでいる墳墓の調査をしていた。これは弥生時代に誕生し、古墳時代ははじめまで続いた墓の形式で、周囲に幅1〜2m、深さ1m前後の溝を方形に繞らし、その中央に遺体を埋葬している。1辺の長さが10m前後のものが多く、高さは1m前後とあまり高くない。ムラの有力者層の墓と考えられるが、より上位の階層は、墳丘を高く盛り上げ、豪華な副葬品を伴う前方後円墳に代表される本格的な「古墳」に埋葬された。

この周溝墓から、ニワトリの形に土で作って焼いた、長さ24cmほどの土製品が見つかった。鶏冠(とさか)が発達しているのが雄鶏であることがわかる。この土製品の形状を詳しく見てみると、腹部から背中にかけて径1cm位の孔が突き抜けているのがわかる。このニワトリが、細い竿のようなものの先端に差し込まれて立てかけられていたことが推測される。ためしに孔の大きさに合わせた竿を作り、ニワトリを差し込んでみると、うまい具合に空中に掲げることができた。

周溝墓の中心に当主が埋葬されると、その傍らにこのニワトリがかかげられ、家族や関係者一同が必死で、今は亡き肉親の再生を祈り続けた姿が目にかんでくる。



### 死者と別れ惜しむ殯屋跡もがりや (伊勢崎市赤堀町多田山遺跡群)

昨今、亡くなった人を葬送するプロセスは、随分簡単になったなあと感じる。私の子供のころ、道を行く葬列に何度となく出会った。関係者が様々な葬送の道具を分け持ち、悲しみの中で、ゆつくりと列の歩を進めていた。亡くなった人の自宅から、みんなであの世へと送ったのだろう。

最近では、葬儀の参列者やお坊さんも「ホール」に足を運んでくれるので、関係者はそこに居ながらにしてすべて済んでしまう。列をつくってあの世に送り出す必要もない。葬儀の当日に初七日もという簡易さである。

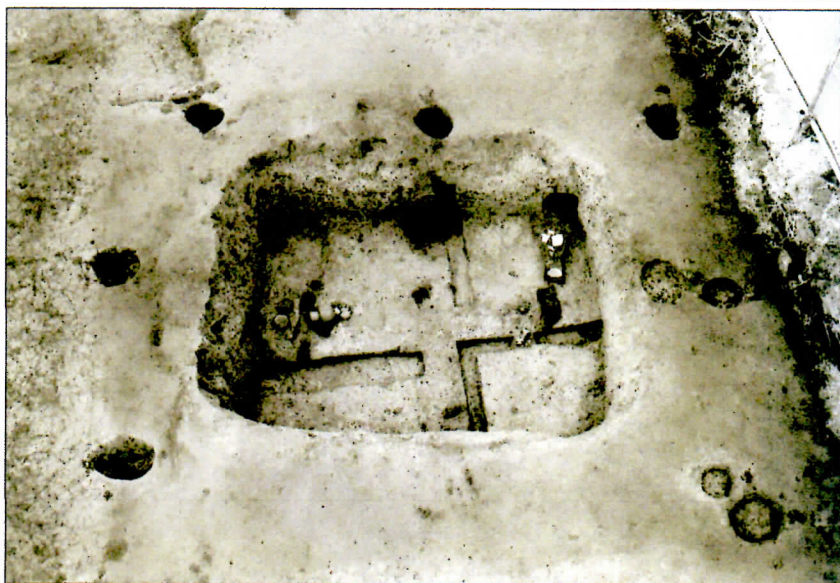
古墳時代では、亡くなった人を古墳に葬るまでには、かなりの月日を要した。その際に遺体を仮安置しておくのが殯屋である。もうだいぶ前になるが北朝鮮の総書記が父親の死に際して、相当の長期間喪に服していたことが、なにか不可解なことのように報道された。実は、この行為は、かつてはごく当たり前のことだった。亡くなった人を墓に葬るのは、一連の葬送の最終的な行為である。肉親の死をなかなか認めない。「もしかしたら生き返るかも」という強い思いが底流にある。

前橋市西大室町の前二子古墳の場所から東

方に目をやると、多田山丘陵の高台が望める。

その丘陵の頂上を県埋蔵文化財調査事業団が調査した際、今まで見たことがない不思議な遺構が見つかった。それは、長さ3.3m、幅3mほどの長方形で、深さ1mの竪穴である。一見すると住居跡に似るが、人が住んでいた痕跡はない。代わりに、底面の中央に、長さ2m、幅0.8mの長方形の浅いくぼみがあり、その一方に接して土器が並べられていた。土器は前二子古墳と同じ時期である。この竪穴遺構の外回りには6本の柱穴が規則的にあり、竪穴を覆う上屋があったことが分かる。また壁は、真っ赤に焼けていた。

この不思議な遺構の調査中に現地を訪れた際、調査担当者の深澤敦仁さんの説明を聞きながら二人の頭の中には、「もしかして、前二子古墳の被葬者の殯屋の跡では!」という思いがよぎった。亡くなってから古墳に埋葬されるまで、竪穴の中央のくぼみのもとに棺が仮置きされ、本埋葬を待機していた可能性である。眼下で進行した前二子古墳の築造を見守るかのように。その期間は何カ月にも及び、人びとが、前二子古墳の被葬者のいのちを惜しむ日が長く続いたものと思われる。



伊勢崎市赤堀町多田山遺跡群の殯屋跡と思われる竪穴遺構

以上のことは、死後の世界のことと思うかもしれませんが、しかし、私は、古墳時代人が、身近な人の死に直面した際に、これほど丁寧に、これほど思い入れ深く対応している姿を通して、いかに彼らが、人のいのちを大切に思っていたのかを教えてもらっている気がしてなりません。歴史上に生きてきたさまざまな人たちは、私たちに對して、汲めども尽きない人生の知恵を伝えてくれます。歴史に学ぶ重要なことはこの辺にもあるかもしれません。